



変わる時代の確かな視点

News Release

2020・2021 年度特別調査 「第5回 新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」のご案内

株式会社ニッセイ基礎研究所では、新型コロナウイルスの感染拡大によって暮らしが激変する中で、全国の20～74歳の男女2,582名に対して、ワクチン接種状況やワクチンパスポートの国内活用、今年の夏休みの予定、オリンピック後の予測、そして、継続的に変化を捉えているコロナ禍の行動変容や不安感について調査致しました。

現役世代でもワクチン接種が進む中、東京都では緊急事態宣言下のオリンピックが目前に迫っています。7月上旬に実施した今回の調査では、都市部を中心に感染者数が再び増える中で、店舗での買い物や公共交通機関の利用は最低限にとどめる様子が見られます。一方で、巣ごもり需要や非接触志向の高まりによって、ネットショッピングやキャッシュレス決済サービス、テイクアウトサービス、自家用車などの利用は一層増え、就業者の約2割でテレワークが増えた状況が定着しています。また、感染不安や経済不安は昨年より弱まっているものの、不自由な生活が続くことで、友人関係や新たな出会いなどの人間関係の不安は強まっています。

なお、ニッセイ基礎研究所では、今後の変化を追跡するため継続して調査を実施する予定です。

<調査結果のポイント>

- ✓ ワクチン接種完了・予約済みは20～60代の3割強へと拡大するが、20代の約1割は絶対に接種したくない
- ✓ ワクチン接種後にやりたいことは圧倒的に国内旅行が多く約半数、次いで外食、友人と会う、ショッピング
- ✓ ワクチンパスポートの国内利用に過半数が肯定的、特に飲食店の割引や施設の面会制限の緩和に前向き
- ✓ 夏休みの予定は圧倒的に自宅・近所で過ごすが多く約6割、次いで自宅でオリンピック観戦が15%
- ✓ オリンピック後の感染拡大は6割強、景気悪化や他の感染症の流行は3割強が懸念
- ✓ コロナ禍で増えているキャッシュレスやネット通販、テイクアウト、自家用車の利用はさらに増加
- ✓ 店舗での買い物や公共交通機関の利用、外食は当初より増えているが最低限にとどめられている
- ✓ テレワークが増えた状況が引き続き維持される一方、出張や会食は昨年冬より控えられている
- ✓ 感染不安や経済不安は昨年より弱まる一方、友人との距離や出会いなどの人間関係の不安は強まっている

調査結果の概要は[こちら](#)から

この件に関するお問い合わせ
ニッセイ基礎研究所「新型コロナによる暮らしの変化に関する調査」担当 久我・井上
pr_corona@nli-research.co.jp
Tel.03-3512-1800
102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 | www.nli-research.co.jp

¹ 第1～4回調査では20～60歳代を対象としていたため、今回の調査結果概要では比較のため20～60歳代の結果をお伝え致します。70歳代の結果は今後、順次報告予定の各研究員の個別レポートをご覧ください。



RESEARCH